

令和6年度第1回石垣市総合教育会議
議事録

1 開催日時

令和7年2月26日（水曜日）午後2時～午後3時

2 開催場所

石垣市役所 大会議室1・2

3 出席者

石垣市長 中山 義隆

石垣市教育委員会 教育長 崎山 晃

石垣市教育委員会 委員（教育長職務代理者）南 和秀

石垣市教育委員会 委員 金城 綾子

石垣市教育委員会 委員 浦崎 美紀子

石垣市教育委員会 委員 新里 裕樹

【市長】令和6年度第1回石垣市総合教育会議を開会させていただきます。

それでは協議事項に入ります。今回の協議事項は「石垣市教育大綱の改正について」です。まず、企画政策課より、その説明をお願いします。

～第4期石垣市教育大綱（案）の説明～

【市長】ただいまの説明に基づき、今回の改正案についてご意見等がございましたらお聞かせください。

【市長】では、私の方から意見を述べさせていただきます。基本方針2の文中、「さらに教科担任制などの積極的な活用により、専門的な指導を通じて学力向上を推進します。」についてです。何年生から導入するのかがご判断いただきたいと思いますが、小学校でも教科担任制を導入することが、働き方改革の観点からも望ましいと考えております。一人の先生が全教科を担当している場合、教材研究に多くの時間を費やしても、授業時間が1時間だけで終わってしまいます。そのため、教科担任制を導入することで、1時間分の教材研究を行った場合でも、3クラス・4クラスまで指導できるようになり、教員の負担が軽減されると思います。また、教科担任制により、同学年の児童に対して、同じ教員が算数や理科を担当することで、子どもたちの学びの機会が均一化され、教育の質が向上すると思います。この点について、ご意見をいただければ幸いです。よろしく申し上げます。

【教育長】今回の第4期の教育大綱の案につきましては、令和3年度に実施した総合教育会議（第1回：令和4年2月、第2回：令和4年3月）での大綱方針を踏まえ、さらなる改善点や新たな取組を強化する形となっております。また、市長からご指摘いただいた教科担任制については、国際化・情報化社会の教育の一環として専門的指導の推進が求められ

ています。これにより、小学校の児童に対して、より豊かで専門的な教育を提供する工夫が必要です。私どもとしても、教育事務所と人事配置について協議し、より効果的に進めていただける様に取り組むと同時に、石垣市としても、学校現場にプラスとなる取組ができるよう検討してまいります。

【新里委員】 石垣市教育大綱の改定案について、素晴らしい内容になっていると感じております。前回の3期の改定時にもこの総合教育会議に関わらせていただきましたが、今回確認した中で、文言に関する質問と意見を述べさせていただきます。

資料1の基本方針3において「地域の教育力の活性化を図ります」と記載されていますが、この「教育力の活性化」という表現が分かりづらく感じました。言葉の使い回しを確認したところ、「教育力の活性化」という表現はあまり一般的ではない様に感じます。表現の方法としては「教育力の向上」や「教育活性化」といった言い回しの方が、より理解しやすいのではないかと思います。この点について表現が適正であれば問題ありませんが、気になった部分としてお伝えさせていただきました。

次に、基本方針1についてですが、前回私も携わっていた中でそのまま同じ文言が使用されているので、今更の指摘になってしまうのですが、「自ら学ぶ意欲を育み確かな学力の向上」の次にある「潤いと生きがいのある生涯を通じた」の、「潤い」という言葉について、改めて3年経って読み返すと、何を指しているのか疑問に思いました。「潤い」は湿った、しっとり、ゆとりのあるという意味合いを持つと思いますが、この基本方針における「潤い」は何を指しているのか、事務局からご回答いただければと思います。よろしくお願ひします。

【企画政策課長】「潤い」という部分については再度調査し、確認させていただきたいと思ひます。また、基本方針3の「地域の教育力の活性化を図ります」という表現については、学校現場も含めて教育事務所としっかり確認いたします。ご提案いただいた「教育力の向上」や「教育活性化」といった表現が適切かどうか、精査させていただきます。

【新里委員】 分かりました。基本方針3については適切な言葉であれば良いと思ひます。「潤い」に関しては、この文中でどういう意味なのかという疑問が出たため、もし「潤い」という文言がなかったとしても、伝えたいことの意味合いは成り立つと感じましたので、各関係部署と相談しながらご検討をお願いします。

さらに1点確認があります。資料2の教育大綱体系図の基本方針4の「郷土の自然・文化を学び、地域に誇りを持てる教育の推進」について、施策の方向の中に郷土文化に関する内容は多く見受けられますが、「郷土の自然」に関連するものがどれに当たるのか、私自身では探しきれませんでした。この自然に関する内容がどこに組み込まれているのか教えていただきたいと思います。もしかするとどこかに紐づけられて入っている可能性もあるので、ご説明も含めてお願いできたらと思ひます。よろしくお願ひします。

【企画政策課長】 委員からご指摘いただいた自然に関する内容が見当たらない件についても宿題とさせていただきます、関係部署とも調整して改めてご回答させていただきます。

【新里委員】 ぜひお願いします。石垣島と言えば自然というイメージが強いです。教育分野において自然という活字が出ることは重要だと思いますので、よろしくお願いします。私からは以上です。

【南委員】 教育委員の南です。よろしくお願いします。資料 1 の基本方針 3 の中の文章の 2 行目に「社会奉仕体験や生活・自然体験活動」とありますが、ここで言う社会奉仕体験は地域と子どもたちが一緒に行う活動を指しているのか、具体的にどのような社会奉仕を想定しているのかが不明確に感じました。また、カウアイや北上市などとの交流事業について、実際に行っている交流学习が文面に表れていません。交流体験は市の実績として重要な要素ですので、明確に打ち出した方が良く考えます。

【市長】 基本方針 3 の社会奉仕体験はどのようなものを想定していますか。

【企画政策課長】 ボランティア活動や海岸清掃、環境保護に関する活動など、各学校や地域で様々な社会奉仕活動が行われています。地域行事にも多くの子ども達が参加しており、そのような活動を指して社会奉仕体験と位置付けています。

【教育長】 現在、小中学生教育交流事業を台湾蘇澳鎮、北上市と行っており、市民保健部ではカウアイとの英語学習も実施しています。これは基本方針 2 の国際化・情報化社会に含まれるものだと思います。「教育交流」という言葉を説明の中に明確に入れた方が良いかどうか検討する必要があると思います。

【市長】 国際交流については施策の方向の (3) に「国際交流機会の推進」があるので、それは問題ないでしょう。

【教育長】 基本方針 2 に「地理的特性を生かした国際性豊かな視野の広い人材の育成を図ります」と記載されています。

【南委員】 これがカウアイとの交流を指していると考えております。

【教育長】 カウアイだけではなくて蘇澳鎮や国内の北上市とも交流を行っています。

【新里委員】 蘇澳鎮や北上市との交流については基本方針 3 に入れても良いかと思います。

【教育長】 明文化したほうが良いと思います。

【南委員】 交流学习は力を入れている事業ですので、明文化していただきたいと思います。

【教育長】 現在「交流学习」というと、石垣島内の北部の集合学習や北部と市街地の交流学习を指すことが多いと思われそうですが、南委員がおっしゃっている内容は、より広い視野での教育交流だと思いますので、「教育交流」という表現が適切だと思います。

【南委員】北上市とも交流していますので、その点も考慮すべきです。

【教育長】それならば、基本方針 2 の 1 行目「石垣市の地理的特性を生かした教育交流」という文言を加え、国際的視野も含めて教育交流という言葉盛り込むのはいかがでしょうか。また、「国内外の」という表現を加えることで、南委員のおっしゃる実際の活動と合致した文言になると思います。

【南委員】併せて、せっかく実施している大切なことですので、施策の方向にも追加した方が良いと思います。

【市長】そのように付け加えることにします。他にご意見はございますか。

【浦崎委員】私たちは学校訪問を行っていますが、その際に大濱信泉の「勇気づけの教育」が学校で提案され、推進されています。石垣市教育委員会でも入口に大濱信泉の言葉が掲げられています。しかし、その「勇気づけの教育」がどこにも見当たらないですが、これは大綱には含めないのでしょうか。学校現場ではよく耳にし、目にします。私たち教育委員も自己受容や自己肯定感という大濱信泉先生の「勇気づけの教育」を引用してきました。その文言がどこにも見当たらないのが少し残念です。

【金城委員】基本方針 4 の「郷土の自然・文化を学び、地域に誇りを持てる教育の推進」についてですが、「さらに地域の特色を生かしながら、小中一貫校の取組を進めていきます」という文言を足したらいかがでしょうか。その理由は、今の石垣市の教育は GIGA スクールや、スクールロイヤー等、きめこまかな体制で頑張っていると思います。今年度の市長の施政方針にもあるように、本市の子どもたちの活躍には本当に目を見張るものがあります。その状況下で石垣市の学校を見てみると、ごく小規模校や小中併置校が存在し、平久保小学校の廃校もありました。今後も統廃合が予想される中で、本市の実態を考慮すると、小中一貫校を意識した文言の組み込みが必要だと思います。なぜ基本方針 4 でその文言を入れるべきかという、異年齢の子どもたちが一堂に集まる場所だからです。クラブ活動や部活動、英検、漢検、各種祭りなど、子どもたちが取り組める場所だからです。そういう意味において、異年齢の子どもたちの集まりは、効率的な学習を模索する絶好の場所だと思います。したがって、ここで小中一貫校という文言を入れる事、あるいは急な場合には、そのようにしてみんなが一つになって進めていくことを入れたらいかがでしょうか。

【市長】今のご意見、非常に大事だと思います。確かに小中一貫校に関して検討が必要です。まだあまり議論されていない状況ですが、少子化に向かいますので、複式学級などが増えてきて、厳しい状況になると思います。ぜひこの方向性を取り入れていきたいと考えていますが、皆さんはいかがでしょうか。

【南委員】少子化で子どもが減ることですから賛成です。

【新里委員】そうですね。

【市長】小中一貫校に関しては文言として入れ込むような形で進めていきたいと思います。

【新里委員】質問なのですが、この教育大綱の対象は青少年（18歳以下）なのか、子ども・若者（39歳以下）も対象になるのかを改めて確認させていただきたいと思います。3年間かけて石垣市内の小中学校全てを訪問し、実情を知ることができました。不登校や様々な問題を抱えている子どもの原因の大半は、家庭にあると感じています。このような意味で39歳以下の親は多く存在しますので、「親育」ではないですが、親に対する教育も含まれるのかどうかをお伺いしたいと思います。もしそれが枠内であれば、施策の一つとして文言を入れ込むことで、それに対する事業も実施しやすくなるのではないかと思います。各学校で先生方に質問しても、不登校の子どもたちの多くがいじめ等の問題が原因ではなく、家庭環境や家庭教育の問題によることが多いです。少し言い方が悪く聞こえるかもしれませんが、親が教育を放棄している場合が多いです。そもそも義務教育を重んじていない状況も見受けられますので、親に対しても教育という分野で何かしらお伝え出来る場面が必要ではないかと、特に感じています。基本方針の5や3などにその内容を入れていただければ、事業も実施しやすくなるのではないかと思います。ご提案としてお伝えします。

【企画政策課長】ありがとうございます。教育基本法等に基づいてこの大綱が作成されますので、対象などを整理しながら、今のご意見をどこまで反映できるのかについて、次回ご説明させていただきたいと思います。

【南委員】3点ほどありますが、まず資料2の項目の並び替えについてです。基本方針1には施策の方向が(1)から(16)までありますが、中身を見ていくと、(1)から(8)までは学校に関することです。そして(9)・(10)・(11)などは生涯学習に関する内容などが出てきて、(13)からまたキャリア教育や農業体験など、学校に関するものが続いていますので、ここは学校教育に関するものをそのまま(8)の後にまとめた方がわかりやすい気がしました。これは項目の並び替えだけです。

もう一点、基本方針2の(5)です。情報教育（GIGAスクール構想）の推進がありますが、GIGAスクール構想が始まって3年ほど経ちます。いつまでもGIGAスクール構想の推進で良いのか疑問に思います。また、情報教育とありますが、それだけでなく、教育のDX化が進められているところです。校務支援ソフトが学校に導入されたり、学校教育全体がDX化されつつある時期ですので、情報教育（GIGAスクール構想）の推進で良いのか再考する必要があると思います。教職員の働き方改革にもつながってくると思います。

もう一点は、全体を通して見た際に、「子ども若者の自立支援の推進」がありますが、今学校教育の中で一番大きな課題は不登校といじめだと思います。これが全くこの中に出てこないため、いじめ防止対策推進法もありますので、市としてしっかり取り組んでいくことを明確化した方がいいのではないかと考えます。以上です。

【企画政策課長】まず、基本方針1の施策の方向については、並び方をより分かりやすいように検討させていただきたいと思います。

次に、基本方針2(5)の「情報教育（GIGA スクール構想）の推進」が現状に即しているかどうかについては、所管の学校教育課と改めて共有しながら、現状における推進及び今後の方向性について適切な言葉を検討させていただきます。

不登校・いじめに関しましては、具体的に不登校・いじめという表現を用いるべきか、それとも他の補完される形で盛り込むべきかは関係各部調整のうえ、表現について改めてご説明させていただきたいと思っております。

【新里委員】基本方針3の(10)市立学校図書館活動の「充実」から「連携」という文言に変更された点について、意見を述べさせていただきます。もちろん実際は連携していくことが適切であり必要だと思いますが、各学校や施設に関しても「充実」も変わらず図っていく必要があると思いますので、「充実・連携」といった形で「充実」の文言を削除する必要はないのではないかと感じています。ご検討いただき、適切な訂正をお願いできればと思います。以上です。

【浦崎委員】今更ですが、この「教育」のターゲットは何十代を想定しているのでしょうか。例えば、「いつでもどこでも学びができる」という基本方針1についてですが、私の周囲では図書館の閉館に対する残念な声が多く聞かれます。現在、平日働いて週末休みという一般的なライフスタイルから変化している中で、図書館で勉強しようと思っても、訪れた際に閉館していることが多いです。図書館の働き方改革も必要ですが、「いつでもどこでもだれでも学ぶことができる」環境を整えるために、図書館は年中無休での運営をお願いしたいです。

また、基本方針2の「急速に進展する情報化社会」についてですが、先ほど年齢ターゲットについてお尋ねした理由は、現在の子どもたちが学校のGIGAスクール構想でデジタル機器を使いこなしている一方で、親世代や祖父母世代は戸惑っている状況があるからです。情報化の分断が存在し、「何を言っているのかわからない」「携帯も触れない」といった声が聞かれます。この教育大綱が若者を中心に行っているのか、石垣市民全体の教育を網羅するものなのか、この点についてお伺いしたいと思います。「生涯学習」と記載されていますが、シニア世代に向けた方針が見当たらず、不安が募ります。生涯教育に関する文言をより明確に盛り込むことを、検討していただければと思います。

【企画政策課長】今回、基本方針を5つに分け、それぞれに対して施策の方向を定めました。切り口や見方によって解釈が異なる部分があることは承知しておりますが、体系図でより分かりやすくなるように努めてまいります。また、いただいたご意見については、どこの部分に含まれ、どのように説明するか所管を含めて確認し、次回しっかりと説明させていただきたいと考えております。

【市長】今、石垣らしい特徴のある教育を実施したいと考えています。以前、教育長ともお話ししましたが、例えば石垣の子どもたち全員が三線を弾ける、鷺ぬ島節を弾ける、踊りを踊れるようになれば、自分たちの地域に対する誇りが育まれると思います。島を出たときに大学生や社会人として「何か一芸お願い」と言われた際に「すぐできるよ」と自信をもって答えられることが理想です。また、小さい頃から三線に関わることで、郷土芸能

に興味を持つ子どもたちも増え、地域への愛着が深まるのではないかと考えています。皆さんのご意見はいかがでしょうか。

【新里委員】とても良いアイデアだと思います。大人になって感じるのですが、子どもができて活発に動き出す中で、地域のことに関わる機会が少ないと感じます。個人的な意見ですが、踊れたり歌えたり三線を弾けたりすることができないと、郷土愛を育むのが難しい部分があります。それが教育の中で一つでも身につけることができたなら、郷土愛が増し、それが伝統的な文化につながっていくと思いますので、とても良い提案だと感じます。

【市長】最終的には学校長の判断になりますので、実施している学校とそうでない学校が出てくる可能性があります。これは校長会とも相談しなければなりません。石垣市として全学校でこの取り組みを実施することを教育大綱に盛り込むのはどうでしょうか。実施する事業としては、三線を各学校に1クラス分30丁程度配布するなどが考えられます。指導は地域の民謡教室などをお願いする必要があると思います。

【浦崎委員】毎年成人式で郷土芸能の子どもたちが颯爽と踊る姿を見て、とても感動しています。私も郷土芸能に参加していれば、今頃少しは踊れるようになっていたのかなと思いますので、市長の意見には非常に賛同します。

【金城委員】各学校で郷土芸能が盛んになるということですね。昨年、県で見た際、中学生や高校生が、「八重山は上手だ」と興味を示す会場の雰囲気がありました。そうした文化をさらに伸ばすためにはどうしたら良いか、ずっと考えていました。一芸を持つことは自己成長にもつながりますし、例えば鷺ぬ鳥節を学ぶ際には、「あやばに」や「ぶいるばに」といった歌詞を通じてスマムニや文化に触れることができると思います。そうした取組から、子どもたちに誇りを持たせ、自信を持って成長していく方向へ導くことができれば、とても良いと思います。私は大賛成です。

【市長】部活動の地域移行については、特に入れなくてよいでしょうか。

【教育長】現在、取り組んでおり、名称も「地域展開」と呼ぶようになっています。

【企画政策課長】基本方針1の(11)「総合型地域スポーツクラブの育成」にも関連付けられると思います。

【新里委員】1点情報提供としてお伝えしたいことがあります。学校訪問を通じて感じたことですが、部活動の地域移行については気になっていました。部活動は学校の目玉であり、誇りを持っている学校も多いです。しかし、国は3年後に地域移行の完全実施を目指している状況です。学校としての実情を聞いてみると、部活動には派遣費がかかるため無料ではありませんが、生徒にとっては取り組みやすく、参加しやすい環境が整っています。一方で、クラブ活動は参加の敷居が高くなることもあります。そのため、活発な部活動が残ることを望

む意見も多く聞かれました。また、働き方改革の観点からも様々な意見があり、部活動で社会性を学ぶことについては賛否が分かれると感じました。これは私が聞いた方々の意見が重なったものですが、情報としてご提供できればと思います。

【市長】具体的な状況として、市内にある中学校の女子バレーのクラブチームが県大会で優勝するなど成果を上げています。この影響で他校の女子バレー部にどのような影響が出るかが懸念されます。クラブチームに参加したいという生徒が増えることで、本来6・7名いた部員が2・3名に減少し、結果的にバレーボールを続けられない生徒が出てくる可能性があります。この点については慎重に検討する必要があると考えています。

【教育長】地域展開とクラブチームについては、クラブチームに参加する生徒もいれば、学校で活動したい生徒もいるため、うまく住み分けができると考えています。校長先生からも、そのような意見が寄せられています。学校内の部活動で自分を発揮し、仲間を作りたいと望む生徒も多いということです。

【市長】もし後から思いついた点や気になる点がございましたら、担当までご連絡いただければと思います。本日は多くのご意見をいただきましたので、これを取りまとめた上で次回の会議を開催し、再度議論を行いたいと思います。それでは、本日の会議は以上とさせていただきます。これをもちまして令和6年度第1回石垣市総合教育会議を閉会いたします。お疲れ様でした。

以上